熊本県における「救急医療体制」

～地域を支える新たな取り組み～

急病や災害、事故など緊急治療を要する病気やけがなどから人々の命を守る救急医療。高齢者人口の増加や感染症の流行、多発する自然災害などにより、救急出動件数は年々増加傾向にある。そういう状況の中、より迅速で適切な治療を提供するため、地域における救急医療体制の見直しや環境整備が進められている。熊本県の救急医療の特徴や課題について、熊本大学病院 救急部教授の入江弘基氏にお聞きした。

年々多様化する救急医療のニーズに対応 広域防災拠点としての役割も担う熊本県

日本の救急医療は緊急度や重症度に応じて、一次、二次、三次救急の3段階に分かれており、緊急性の高い患者さんは三次救急の対象となります。熊本県では現在、三つの救命救急センターと熊本大学病院の計4施設が重篤な救急患者を受け入れる三次救急を担い、多様化する救急医療のニーズに対応しています。

救急医療の現場は、災害や感染症などいつどこで発生するか分からない、予測不能な事態に対応するため、入念な事前準備と消防をはじめとする関係機関との連携が必要不可欠。災害の規模によっては、複数の県にまたがる対応も必要です。熊本県では2022年に、広域防災拠点としての役割を担っていけるよう「九州を支える広域防災拠点構想」を策定。南海トラフ地震を想定し、鹿児島・宮崎・大分各県の被災者を受け入れるための輸送訓練やインフラ整備などさまざまな対策が行われています。

「熊本型」搬送体制 救急現場や病院間を繋ぐ情報共有システム

遠隔地の患者さんをより迅速に搬送するため、熊本県ではドクターヘリと防災消防ヘリの2機体制による「熊本型」ヘリ救急搬送体制を運用。ドクターヘリが出動中に別の救急事案が発生した時は、防災消防ヘリが医師を乗せて現場へ向かうというように、独自の相互補完体制で活動しています。三次救急を担う4施設がすべて熊本市内にあるため、それぞれの施設が担当する地域を決め、ヘリ情報を共有するなど相互に連携しながら県内全域をカバーしています。

救急医療の現場で役立っているのが、県独自の情報共有システム「くまもとメディカルネットワーク」です。県内の病院や薬局、介護施設などの関連施設をネットワークで結び、患者さんの許可を得た上で、診療や介護に必要な情報をオンラインで共有。救急医療だけでなく、通常の医療や介護サービスの場でも利用が広がっています。

また、県内の救急隊で、医療関係者間コミュニケーションアプリ「Join(ジョイン)」の運用方針となり、今年4月から順次運用開始となりました。救急隊員が撮った負傷部位等の画像や心電図などのデータを、現場から受け入れ病院へ送信。情報をリアルタイムで共有できるため、病院は患者さんの状態に応じた受け入れ準備ができ、治療開始までの時間の短縮が期待できます。

熊本県救急安心センター事業開始 判断に迷ったら#7119に相談を

急な病気やけがをした時に、救急車を呼んだ方がいいのか、すぐ病院に行った方がいいのかなど迷う時があると思います。そういう時に利用していただきたいのが、熊本県救急安心センターの相談ダイヤル#7119です。これは救急車の適正な利用や救急医療機関の受診の適正化に向けて国が推進している事業で、熊本県も昨年(2024年)運用を開始しました。#7119に電話すると看護師などから病院受診の必要性や対処方法など適切なアドバイスを受けられます。日中から体調が悪い場合は、検査体制が充実している診療時間内にかかりつけ医などに受診するようお願いしたいですね。7月8月は熱中症による救急搬送の件数が急増してきます。水分補給など予防に努めることは大切ですが、体調が急変した時はがまんせずに119番に連絡してください。

日頃からの準備と、ACP(人生会議)について話し合っておくことも必要

医療をより安全に受けるためには、「くまもとメディカルネットワーク」やマイナンバー保険証の登録、緊急時の家族の連絡先やお薬手帳を分かるところに保管するなど日頃から準備をしておくことが大切です。

この機会にみなさんにぜひ知っていただきたいのが、救急現場における終末期医療についてです。熊本県メディカルコントロール協議会では、2025年4月より、「人生の最終段階にある患者の意思に沿った救急現場での心肺蘇生」に関する救急隊の標準的活動指針と活動プロトコールを作成しました(※)。救急搬送を要請され、現場に駆け付けた救急隊がプロトコールに基づいて、かかりつけ医との相談内容を確認することがあります。患者さんの容態が急変して心停止してしまった時に、患者本人が望まない心肺蘇生措置を行わないことも選択肢の一つです。厚生労働省も「人生の最終段階における医療・ケアの決定プロセスに関するガイドライン」を作成し、指針を示しています。将来の医療やケアについて、ご家族や親しい人、医療・介護従事者たちと繰り返し話し合いを行い、共有する取り組みをACP(アドバンス・ケア・プランニング＝人生会議)といいます。もしもの時に備え、最期にどういう医療やケアを望むのか、ご自身の意思やご家族の意向を話し合っておくことも必要です。(談)

※熊本県HP
人生の最終段階にある方々の意思に沿った救急現場での対応方針について

熊本大学病院 救急部
教授 入江 弘基 氏

われわれは医療の発展に貢献いたします。
（順不同）

熊本機能病院 KUMAMOTO KINOH HOSPITAL
理事長 米満 弘一郎
日本救急医学会認定 救急科専門医
〒860-8518 熊本市北区山室6-8-1
☎096(345)8111
https://www.juryo.or.jp

医療法人 寛和会
南部中央病院
理事長 坂本 憲史
熊本市南区南高江6丁目2番24号
TEL.(096)357-3322
FAX.(096)357-7934

一般社団法人天草郡市医師会立
苓北医師会病院
病院長 一丸 孝之
熊本県天草郡苓北町富岡3600-3
☎0969(35)1133
https://www.rmahp.jp/

一般社団法人 八代郡市医師会
八代北部地域医療センター
院長 吉田 光宏
へき地医療拠点病院
〒869-4601 熊本県八代郡氷川町今151-1
TEL:(0965)53-5111 FAX:(0965)53-5112
URL https://ygmahp.ec-net.jp/

社会医療法人 黎明会
宇城総合病院
病院長 箕田 誠司
〒869-0532 宇城市松橋町久具691番地
TEL(0964)32-3111(代)
FAX(0964)32-3112(代)

熊本総合医療リハビリテーション学院は、心身共に調和のとれた社会人・医療人の育成に努めます。
理学療法学科・作業療法学科・臨床工学学科
義肢装具学科・救急救命学科
医療法人 弘仁会
熊本総合医療リハビリテーション学院
学院長 牛島 一男
副学院長 中原 伸一　副学院長 坂崎 浩一
〒861-8045 熊本市東区小山2丁目 25-35
TEL:096-389-1133 FAX:096-389-1135 https://www.kumareha.ac.jp/

熊本赤十字病院
JAPANESE RED CROSS KUMAMOTO HOSPITAL
断らない救急
~ Anyone, Anything, Anytime ~
院長
平田 稔彦
副院長/救命救急センター長
奥本 克己

熊本市東区長嶺南二丁目1番1号 ☎096-384-2111（代）

国立病院機構
熊本医療センター
院長 日髙 道弘
〒860-0008 熊本市中央区二の丸 1-5 TEL 096-353-6501 FAX 096-325-2519

社会医療法人 令和会　理事長 坂口 満
熊本整形外科病院
院長 平川 敬
熊本市中央区新屋敷1-17-1
TEL：096-366-3666
熊本リハビリテーション病院
院長 桑原 公倫
熊本県菊池郡菊陽町曲手760
TEL：096-232-3111

整形外科・リウマチ科・リハビリテーション科
医療法人 宏徳会
西整形外科医院
日本整形外科学会認定 整形外科専門医
院長 西 芳徳
熊本県荒尾市蔵満1859-1 ☎0968(68)2511

私たちと救える命がある
社会福祉法人
恩賜財団 済生会熊本病院
SAISEIKAI KUMAMOTO HOSPITAL
院長 中尾 浩一
救急科 佐藤 友子
熊本市南区近見5丁目3番1号 TEL.096-351-8000(代表)

独立行政法人 地域医療機能推進機構
人吉医療センター
Hitoyoshi Medical Center
院長 薬師寺 俊剛
熊本県人吉市老神町 35 TEL 0966-22-2191